

114  
A2954  
1



内務省  
方一六號

從來司法省ノ主管ニ屬シタル船舶登記事務ヲ  
管海官廳ニ於テ管掌スルモノト貴會ニ於テ議決  
セラレタル趣ニ付テハ右議決ノ要旨致承知度且該件  
ニ付別紙ノ通退信大臣ヨリ前議有之候ニ付テハ  
貴會ノ御意見致承知度以段及御照會候  
也

明治三十一年九月三十日内閣書記官長武富時敏  
法典調査會方一六部長

男力子存尾清三良殿

天  
正  
十  
一  
年  
四  
月  
候  
爵  
郵  
寄  
附





管才三九〇号

船舶登記事務管掌ノ件

船舶登記ノ事務ハ從來司法省ノ主管ニ屬セシ  
ニ這般法典調査會ハ之ヲ管海官廳ニ於テ管  
掌スヘキモノト議決シタリ本大臣ニ於テハ右ノ事務  
ハ依然司法省ノ主管ニ存スルヲ適當ト信スルヲ以  
テ別致理由書ヲ具シ閣議ヲ提案請ス

明治三十一年九月廿四日

逓信大臣 林有造

内閣總理大臣 伯爵 大隈重信 殿



船舶登記ノ事務ヲ司法省ノ主管ト為スル理由

第一 登記ハ私權ノ得喪若クハ変更ヲ第三者ニ

公示スル所以ノ方法ニシテ司法裁判ト密接ナル關係

ヲ有スレトモ航海事業ノ保護ヲ以テ目的トスルカ

如キ行政事項ニ關係ナシ

第二 登記スルキ權利ノ目的物ハ船舶ト不動産ト異

ル所アレトモ登記其ノ物ノ形式及效力ハ大体ニ於テ

同一ナラサルヘカラス然ルニ此事務ヲ兩省ニ分属セシ

ムトキハ其ノ統一ヲ期スルコト難シ

第三 船舶司檢所ノ數ハ目下本所ハ四ヶ所ニシテ支所ハ



九個所アリ將來船舶法及船員法ノ行ハルヲ期シ  
更ニ七個所ヲ増設シ合計二十個所ト爲サントス然  
ルニ登記役所ノ數ヲ見ルニ明治三十年末ニ於テ實ニ  
千五百八十九個所ナリ故ニ其沿岸ニ在ルモノノミニテモ  
蓋シ數百個所ニ上レシ今若シ船舶登記事務ヲ  
管海官廳ニ移ストキハ該官廳ヲ非常ニ増設セサ  
ルヘカラサルヤ明ナリ是レ今日ノ財政ニ於テ許スヘカラサ  
ルコトナルヘシト信ス

第四 船舶登記事務ヲ司法<sup>省</sup>所管トスルノ不更ナル  
理由ハ第一船舶國籍證書ニ關スル登録ト船舶

ノ登記ト其ノ手續ノ重複スルコト第二登記役所ニ  
船舶ノ臺帳ナキコト第三船舶ニ關スル事務ハ特殊  
ノ技能ヲ要スト云フニ在ルカ如シ第一ノ理由ハ登記事  
務ヲ管轄官廳ニ移ス外良策ナシ第二ノ理由  
ハ登記役所ニ於テ其ノ管内ニ定繫場ヲ有スル船  
舶ノ臺帳ヲ作レハ可ナリ缺點ニ付テハ不動産ト選  
所ナシ又第三ノ理由ハ船舶ノ登記ヲ為スニハ船舶ニ關ス  
ル特殊ノ知識ヲ要スト云フモ是レ實際ヲ見サルノ見  
ナリ登記ノ申請アル毎ニ船舶ニ臨檢レテ之ヲ檢査  
スルカ如キハ仮令管海官廳ニ該事務ヲ移ストモ到



底不能ノ事ナリ苟モ其臺帳ヲ整理スレハ其ノ其臺帳ニ  
記載セル事項ト申請ニ係ル目的物ノ表示トヲ相對照  
シテ其差違ヲキヲ認ロシハ可ナリ故ニ此点ニ關シテハ特  
殊ノ技能ヲ施スノ餘地ナシ而シテ船舶ノ其臺帳ノ整理ハ  
管海官廳ト協定セハ容易ニ其ノ目的ヲ達スヘキ  
ナリ

第五 登記事務ヲ管海官廳ニ移ス利益ハ船舶  
登録ノ手續ト登記ノ手續トノ重複ヲ避クルノ  
一點ニ歸スヘシ而シテ其ノ不利ナル点ハ第三項ニ述ヘ  
タルカ如ク新ニ莫大ノ費用ヲ支出セサルヘカラサル外

ニ登記申請者ニ非常ナル不便ヲ與フヘシ今假ニ滋  
岸各府縣毎ニ一ノ管海官廳ヲ設置スルレテ一  
例ヲ奉ゲンニ若シ静岡縣ニハ静岡市ニ管海官廳  
ヲ置キ駿遠豆三國ヲ管轄セシメハ豆洲下田港ヲ  
定繫港トスル船舶モ遠洲舞坂ヲ定繫港トスル  
船舶モ皆登記ノ為メニ本人若シハ代理人ハ静岡ニ  
趣カサルヘカラス之ヲ今日ノ如キ比隣ニ在ル登記役所ニ  
出頭シテ事足ルノ狀況ニ比較スレハ素ヨリ同日ノ  
論ニアラサルヘシ蓋シ船舶登録ハ書面ヲ以テ出願  
シ得ルモ登記ニ至テハ當事者ノ自身出頭ヲ要



スルハ明ナルヲ以テ其間大ニ區別セサルヘカラサルモノ  
アルナリ

114  
A 2954  
2

第一部丙第一號

乙第一號

明治三十一年十月五日配付

大正十一年十月五日

去ル九月三十日附送第一六号以テ船舶登記事務ヲ  
管海官廳ニ於テ管掌スヘキモノトスルノ件ニ付本會議  
決ノ要旨并ニ通信大臣ノ意見ニ對スル本會意見  
承知致度旨御照會ノ趣ヲ承即々右ノ別紙理由  
書ノ通りニ有之候条致故及御回答候也

明治三十一年十月 日

調査會第一部長男爵尾崎三良

内閣書記官長武富時敏殿



船舶登記ノ事務ヲ逋信者ノ主管ト爲スヘキ理由

第一 船舶所有者ノ何人タルカハ單ニ私法ニ於テ必要ナル  
尙題ニ非スシテ公法上ニ於テ之ヲ明カニスルコトヲ要ス  
ルカ故ニ仮令私法上ノ關係ハ司法裁判所ニ於ケル登記  
ヲ以テ之ヲ明カニスルモノトスルモ必ズ別ニ公法上ノ關係  
ヲ明カニスル爲メ逋信者ノ管ノ官衙ニ於テ船舶所  
有權ノ登録ヲ爲サシムヘカラス故ニ船舶所有者カ  
始メテ其所有權ヲ取得シタル時ハ勿論其後所有權  
移轉ノ度毎ニ必ズ兩所ニ届出ヲサレコトヲ得ス若シ  
然ラハ假令登記所ハ船舶ノ定繫港ノ附近ニ在



種

凡そ其登記所ニ到ルノ外尚ホ別ニ船舶司檢所ニ到リ  
登録ノ手續ヲ踐マサルヘカラス之ニ反シテ若シ船舶  
司檢所ニ於テ直チニ登記ヲ為スコトヲ得ルモノトセハ  
其当事者ニ便ナルコト歟トシテ白日ノ如シ唯抵留  
權ヲ設定スル場合ニ於テハ單ニ登記所ニ於テ之ヲ  
登記スルヲ以テ足レリトスヘシト雖モ現今ノ実況ニ於テ  
ハ所有權ノ取得又ハ移轉ノ場合自莫ニ抵留權設定ノ  
場合ヨリモ多キカ故ニ当事者ノ便否ヨリ言ヘハ船舶  
登記ノ事務ヲ逋信者ノ主管ト為スコトヲ得策トス  
ルコトハ蓋シ疑ヲ容レサル所ナリ

第二

船舶所有者ノ何人タルカハ行政上ニ於テ之ヲ明  
カニスル必要アリ殊ニ其日本人タルト否トニ依リ國  
旗掲揚權、航海獎勵金等ニ関シ著大ナル差異  
アルカ爲メ若シ其所有權ニ関シ船舶司檢所ノ登  
録ト裁判所ノ登記ト同一ナラサルコトアルトキハ爲  
メニ尠カラサル不都合ヲ釀スヘキハ多辯ヲ待タスニ  
テ明カナリ

第三

船舶登記事項中ニハ必ズ船舶ノ構造ノ種類  
其大小、屬具等船舶ノ事ニ通曉セル者ニ非サレ  
ハ十分ニ了解シ難キモノ多シ之ヲ船舶司檢所ノ職



負ニ委任スルト裁判所ノ職負ニ委任スルト孰シカ  
錯誤ノ虞少キカハ喋々ヲ待タスミテ明カナリ

第四 右ノ理由アルカ爲メ歐米諸國ニ於テハ船舶登記  
ノ事務ハ之ヲ行政官衙ニ委任スルモノ多シ而シテ尤  
モ航海業ノ發達セル國々ニ於テ皆然リトス英米佛  
伊澳、ハルブルグ、ブレーメン、メックレンブルグ、オルデ  
ブルグ等即チ是ナリ而シテ之ヲ司法官衙ニ委任ス  
ルモノハ白、西、葡、普、ルエボック等ノ數國ニ過キス  
而シテ普、ルエボック等ニ於テハ船舶國籍證書モ亦登  
記裁判所ニ於テ之ヲ交付スルカ故ニ通信大臣ノ提議ノ

如クニ重ノ手續ヲ要スルコトナシ又白國ニ於テハ國  
中ノ船舶登記皆アレヴエールノ登記所ニ於テ之ヲ爲  
スヘキモノトシ西國ニ於テハ沿海其他航海業ニ特別ノ  
係アル州ノ首府ニ於テノミ船舶ノ登記ヲ爲スヘキモノ  
トシ葡國ニ於テモ特ニ政府ニ於テ指定シタル土地ノ商  
事裁判所ニ於テノミ之ヲ爲サシメ又ルエボックニ於テモ  
地方裁判所ノ商事局ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトセリ故  
ニ此等ノ國々ニ於テハ通信大臣ノ主張セルカ如ク沿海  
地方ノ各區裁判所ニ於テ船舶ノ登記ヲ爲サシムルヲ  
必要トセス



第五 私権ノ得喪、変更ニ関スル事項ト雖モ必スシモ  
之ヲ司法官衙ノ管轄ニ屬セシメサルヘカラサルノ理ナ  
シ夫ノ版權、特許、意匠、商標、鐘表、業權等ノ如キ皆  
行政官廳ニ於テ之カ登録ヲ爲スニ非スヤ而シテ特許、  
意匠、商標ノ登記ヲ登記所ニ於テモ爲スヘキモノト  
セルモ其実用ナキコトハ既ニ識者ノ徧ク認ムル所ナリ  
第六 逓信大臣ノ稟議中ニ登記ヲ爲スニハ必ス自  
身出頭セサルコトヲ得スト云フモ現行登記法第八  
條ニハ代理人ヲ以テ登記ヲ申請スルコトヲ許セリ而シ  
テ逓信大臣ハ船舶司檢所ニ於テ登録ヲ爲スニハ書面

ヲ郵送セシムルモ可ナリトセムカ如キモ果シテ其ノ如ク簡  
易ナル方法ヲ以テ登録ヲ爲スコトヲ得ヘキヤ否ヤヲ疑  
フト雖モ若シ登録ニ付キ書面ヲ郵送セシメテ可ナリ  
トセハ登記ニ付テモ亦同一ノ方法ニテ可ナルヘキノ故ニ  
船舶司檢所ニ於テ登記ヲ爲サシムルカ爲メ當事者  
ノ煩ヲ増スノ虞ナシ



